産土

今野美怜

忙しない毎日に疲れ果て、
満員電車に嫌々乗り込む。
聞こえるはずもないのに、
懐かしいお囃子が耳をくすぐる。
一度も帰っていない故郷の、
遠い夜祭の音信か……。

日高見川の山奥の
さびれた社の大舞台
鬼の踊りに神は舞い
笛が鳴る鳴る可惜夜に

ひゅるりひゅるり
涼風と鳴る神の笛
稲穂を渡り船渡り
御蚕様（おごさま）の羽を吹き過ぎる

どろどろ轟く雷（おれさま）と
響く太鼓は地を鳴らし
舞い踊る笛は龍の声
さやけき産子の歌う声

ひゅるりひゅるり
天と地の声はとこしえに

千歳を渡り鳴り渡り
夜半の夏に風の吹く……